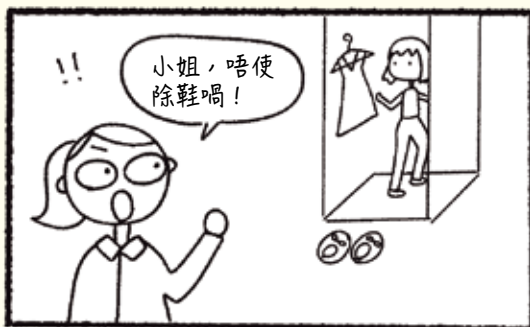
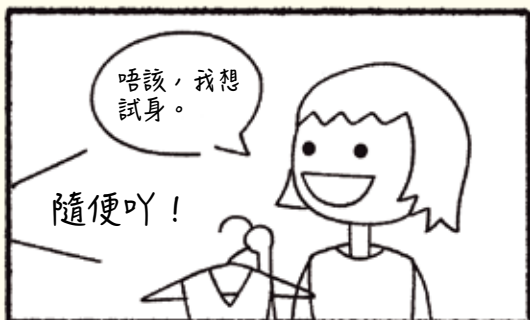


試身唔使除鞋

——試着室で靴を脱がなくてもいい——



在日本，無論是進屋還是進入試身室，通常都要脫鞋。

有些試身室的地台會稍微加高，裏面鋪有地毯；也有些雖然與地面平齊，但內部也會鋪設地毯。

我剛來香港時，第一次到服裝店試穿衣服，以為在香港試衣也要脫鞋。沒想到當我準備脫鞋時，店員驚訝地對我說：「不用脫鞋的！」當時我也感到十分意外。原來在香港，直接穿着鞋子進入試身室是很平常的事。

如果只是試穿上衣，穿着鞋子也無所謂，但試身室還會用來試穿長褲或裙子。穿着鞋子進去會弄髒地板，試穿時衣服或褲子的下襠不就會被弄髒了嗎……。雖然我已經在香港居住了超過十年，但這種文化至今仍然無法適應。

提到試穿衣服，日本的試身室通常會提供「不織布頭套」(Face cover)。我不清楚男裝店是否也有提供，但因為大部分女性都會化妝，為了避免試穿時弄髒衣服，戴上頭套試穿是一種禮貌。如果香港的服裝店也有這項服務就好了。

日本では、試着室に入るとき靴を脱ぐのが一般的だ。しかし、香港はそのような習慣がなく、靴のまま試着室に入るのが普通らしい。それを知らなかった私は、香港に来て初めて服屋で試着したとき、当然のように靴を脱いで中に入ろうとした。すると店員さんに、「え！靴を脱がなくていいですよ！」と言われ驚いた。しかし、私は靴のまま試着をするのが好きではない。トップスを試着するだけなら靴を履いたままでもいいが、試着室ではパンツやスカートも試着する。靴を履いたまま中に入ると床が汚れるし、そうなれば着替えるときに商品（服）の裾が汚れてしまうではないか……。香港に住んで10年以上経つが、未だに慣れない習慣だ。





在香港，為了讓先人在陰間也能衣食無憂，有一種焚燒冥鈔、衣紙等日用品以祭奠亡者的宗教儀式。最初我不了解這類儀式的特殊意義，也不知道紙紮店售賣的貨品有何用途。當時我看到那些印有「天地銀行」字樣、設計精美的鈔票，還以為那是造型有趣的 memo 紙，甚至打算買一些帶回日本當手信！

有一次，一位香港朋友問我：「你下個月返日本，打算買甚麼手信？」我回答說是「memo 紙！」，並向她展示了照片。沒想到朋友大吃一驚，連忙解釋道：「這不是 memo 紙，這是燒給先人的陰司紙！」聽完後我嚇了一跳，幸好有她及時提醒，否則我險些就將它當作手信買了下來。

除了冥鈔外，我還曾有另一個誤會。我一度以為紙紮店售賣的「燒衣紙桶」是一款非常復古且時尚的垃圾桶。由於在日本很少見到這種鮮紅色的造型，我甚至計劃下次搬家時買一個回家使用。

這些我覺得「可愛」的東西，沒想到竟是與祭祀儀式和文化息息相關。這讓我深刻體會到，香港街頭巷尾隨處可見的精彩設計，有時隱藏着與「另一個世界」連結的特殊含義，絕不能單憑外表就輕率判斷。

香港では、亡くなった人があの世で不自由なく暮らせるように、紙のお金や衣服などの日常生活品を燃やしてあの世へ届けるという宗教儀式がある。以前、この紙細工が何のために使われるのか知らなかった。特に「天地銀行」と書かれた紙のお金が可愛いので、次回日本に帰省するときのお土産にしようと思っていた。ある日香港人の友人と話しているときに、「来月日本に帰るんでしょ？どんな香港土産を買って帰るの？」と聞かれた。私は「メモ用紙！」と答え、最近見つけた可愛いメモ用紙の写真を見せた。すると友達が青ざめた顔で、「これはメモ用紙じゃないよ！亡くなった人にあげるものだよ！」と教えてくれた。危うくお土産として買うところだった。

勘違いはこれだけではない。紙細工屋で売っている赤いバケツ（焼衣紙桶）を、私はとてもレトロでおしゃれなデザインのゴミ箱だと思っていて、いつか引っ越したときに買おうと考えていた。しかし、これは先に紹介した紙のお金を燃やす際に使う道具だったのだ。「かわいい」と思っていたものが、まさかあの世へ贈り物をするための儀式に使われるものだったとは…。見た目だけで判断してはいけないと学んだ出来事だった。

